

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-190	A900	22-090	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)			
Alcohol use patterns and risk of incident cataract surgery: a large scale case-control study in Japan 飲酒パターンと白内障手術リスク：日本における大規模症例対照研究			
執筆者			
Fukai K, Terauchi R, Furuya Y, Sano K, Nakazawa S, Kojimahara N, Hoshi K, Nakano T, Toyota A, Tatemichi M.			
掲載誌			
Sci Rep. 2022 Nov 22;12(1):20142. doi: 10.1038/s41598-022-24465-2.			
キーワード		PMID	
飲酒パターン、白内障、症例対照研究		36418504	
要旨			
<p>目的：日本人成人の飲酒パターンと白内障手術リスクとの関連を検討した。</p> <p>方法：本研究は、白内障手術を受けた患者群 14,861 人と対照群 14,861 人を対象とした症例対照研究である。国内 34 病院のいずれかに入院している 40-69 歳の患者を対象とした。飲酒パターン（飲酒頻度、1日の平均飲酒量、生涯飲酒量）、喫煙歴、ライフスタイル関連の併存疾患および職業的要因を調査した。なお、飲酒量はエタノール 10g を 1drink とし、drink/day あるいは drink-year (drink×飲酒期間[years])を計算した。ロジスティック回帰モデルにより飲酒パターンによる白内障手術のオッズ比 (OR) および 95% 信頼区間 (CI)を推定した。</p> <p>結果：非飲酒者に比し、飲酒頻度が多くなるほど白内障手術のオッズ比は高かった (p for trend<0.01)。また、1日の平均飲酒量が多くなるほど白内障手術のオッズ比は高かった (p for trend<0.01)。さらに、男女ともに、生涯総飲酒量が多いほど、白内障手術のリスクが高く (p for trend<0.01)、男性では 90 drink-year、女性では 40 drink-year を超えると有意にリスクが高かった。</p> <p>結論：アルコール摂取と白内障の間には、正の用量反応関係が観察された。飲酒を制限することで、白内障の進行を抑える可能性があるかもしれない。</p>			